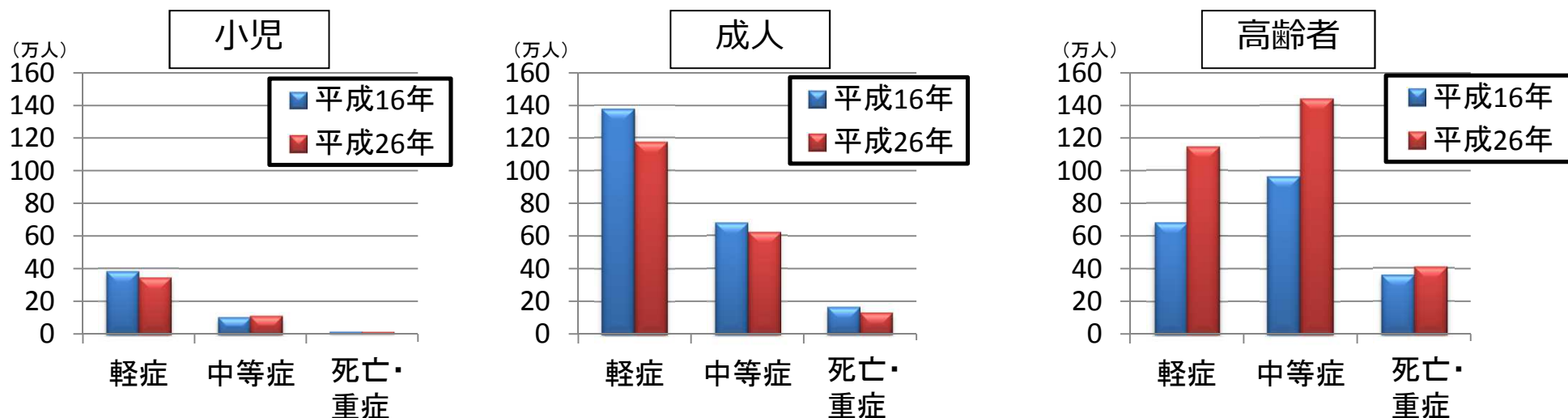


10年間の救急搬送人員の変化（年齢・重症度別）

○ 救急搬送人員の伸びは、年齢別では高齢者が多く、重症度別では軽症・中等症が多い。



平成16年中

全体	小児	成人	高齢者
死亡・重症	1.5万人	16.4万人	36.1万人
中等症	10.3万人	67.9万人	96.7万人
軽症	38.5万人	137.8万人	68.5万人

平成26年中

全体	小児 (18歳未満)	成人 (18歳～64歳)	高齢者 (65歳以上)
死亡・重症	1.2万人 0.3万人減 -20%	13.0万人 3.4万人減 -21%	40.9万人 4.8万人増 +13%
中等症	11.1万人 0.8万人増 +1%	62.2万人 5.7万人減 -8%	144.2万人 47.5万人増 +49%
軽症	34.6万人 3.9万人減 -10%	117.7万人 20.1万人減 -15%	114.6万人 46.1万人増 +67%

死亡：初診時において死亡が確認されたもの
 重症：傷病程度が3週間の入院加療を必要とするもの
 中等症：傷病程度が重症または軽症以外のもの
 軽症：傷病程度が入院加療を必要としないもの